

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式 1）

2024年度選定

奈良県天理市

2025年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業

天理市SDGs未来都市計画

『自然との共生（オーガニックビレッジ）』『支え合い（well-being）』
『地域ブランドの創造』によるまちづくり

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（1）計画タイトル

天理市SDGs未来都市計画

（2）2030年のあるべき姿

本市では、最上位計画の第6次総合計画（2020～2029年度）に将来像『大和青垣に囲まれた 歴史と文化がおる共生都市・天理 ～創り、つながり、笑顔が広がる、多様な連携で共に支え合うまち～』を掲げ、各取組を進めている。
特に総合計画の7分野（福祉、教育、賑わい、産業、安全・安心、都市環境、行財政運営）の各施策とSDGsの17の目標とを関連させ、SDGsの推進を図っている。一方で、本市は、近年、大幅な人口減少に伴い、経済、環境、社会の各側面の基軸の再構築が求められている。
そのため、2030年のあるべき姿を「天理版ネイチャーポジティブ地域経済の創造による循環型環境共生都市の実現」とし、総合計画の7分野とも連動しながら、SDGsの達成に向けた取組を進めていく。

（3）2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済			社会			環境	
8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	12 つくる責任つかう責任	1 貧困をなくそう	4 質の高い教育をみんなに	11 住み続けられるまちづくりを	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	15 陸の豊かさも守ろう

（4）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2024年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（％）
1	天理ブランド認定数（累計）【9.2,9.3】	2022年 11 件	2024年 21 件	2030年 55 件	23%
2	拠点施設等来訪者数【12.b】	2022年 1,382,614 人	2024年 1,845,857 人	2030年 1,950,000 人	82%
3	観光消費額【8.9】	2022年 85,000,000 円	2024年 71,901,476 円	2030年 190,000,000 円 令和6年4月～7月に天理駅前の拠点施設のリニューアルを行ったために行楽シーズンの集客を逃したことが要因。	-12%
4	地域全体でお互いに支え合い助け合う機会や仕組みが充実していると思う市民の割合【4.3,4.4,4.7】	2022年 46.1 %	2024年 38.2 %	2030年 62.0 % 高齢化の進展による地域活動の担い手の減少や、コロナ禍以後も続く地域コミュニティの希薄化が要因。	-50%
5	ひとり親家庭への支援に係るふるさと納税型クラウドファンディングによる寄附額【1.2】	2023年 7,876,140 円	2024年 4,080,016 円	2030年 9,200,000 円 物価高騰の影響、類似のクラウドファンディングが増加したことによる支援者基盤の飽和などが要因。	-287%
6	公共交通機関の利便性が充実していると思う市民の割合【11.2】	2022年 36.7 %	2024年 34.6 %	2030年 50.0 % 2023年（30.7%）からは改善の兆しあり。市独自の「チョイスコてんり利用者アンケート」の「全体的な満足度」では78%が満足している回答しており、評価は概ね良好。	-16%
7	CO2排出量（エネルギー起源+非エネルギー起源）【7.a】	2022年 35,194 トン	2024年 33,089 トン	2030年 31,080 トン	51%
8	環境活動・イベントに対する満足度【15.4】	2012年 14.6 %	2024年 12.1 %	2030年 36.0 % イベント内容の定型化による、参加者の関心の持続困難が要因。	-12%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標1：「天理ブランド認定数（累計）」

・達成度が25%未満となった要因としては、天理ブランド認定事業の認知度の低さ及びブランド認定されることのメリットの周知不足が考えられる。対応策として、ブランドに認定されることのメリットを高めながら、ブランド認定事業の効果的なPRを行っていく。

●指標2：「拠点施設等来訪者数」

・進捗が良かった要因としては、石上神宮において開催された特別企画に約10万人の訪問者があったためと考えられる。また、コロナ禍が落ち着き観光需要が戻ってきたことも一因であると思われる。引き続き、魅力ある企画・イベントを実施していきたい。

●指標3：「観光消費額」

・達成度が25%未満となった要因としては、令和6年4月～7月の4か月にわたり天理駅前の拠点施設のリニューアルを行ったために行楽シーズンの集客を逃したためと考えられる。今後の対応として、拠点施設の運営事業者と連携し、集客に向け効果的なPRを充実させるとともに、魅力ある企画・イベントを実施し、観光消費額の増加を図っていく。

●指標4：「地域全体で互いに支え合い助け合う機会や仕組みが充実していると思う市民の割合」

・達成度が25%未満となった要因として、高齢化の進展による地域活動の担い手の減少や、コロナ禍以後も続く地域コミュニティの希薄化が要因と考えられる。対応策としては、すでに実施しているSTEP体操やいきいきはつらつ教室等の「通いの場」の活動について、SNSや広報紙を活用し、広く周知していく。

●指標5：「ひとり親家庭への支援に係るふさと納税型クラウドファンディングによる寄附額」

・達成度が25%未満となった要因としては、近年の物価高騰の影響に加え、類似のクラウドファンディングが増加したことによる支援者基盤の飽和など、複合的な要因が考えられる。対応策としては、SNSや広報紙等で効果的にPRし、またPR内容を支援者の目に留まりやすいように工夫（文字量を減らし、画像や写真の比率を高めるなど）をしていく。

●指標6：「公共交通機関の利便性が充実していると思う市民の割合」

当初値36.7%(2022年)に対し、直近の調査では34.6%(2024年)となり依然として当初値を下回っている状況である。一方、2023年(30.7%)からは上昇しており、改善の兆しがみられる。また、市独自に実施した「チョイソコてんり利用者アンケート」の「全体的な満足度」では78%が満足している回答しており、新たな公共交通サービスに対する評価は概ね良好である。

今後は、こうした成果を踏まえつつ、市民全体の公共交通に対する満足度の向上に向け、さらなる取組を進めていく。具体的には、「チョイソコてんり」の周知を強化し、利用対象者の拡大を図るとともに、既存の公共交通との連携を一層推進することで、地域内での公共交通機関の利便性を高める。

●指標8：「環境活動・イベントに対する満足度」

達成度が25%未満となった要因としては、イベント内容が定型化してきており、参加者の関心が持続しにくい状況になっていることが考えられる。対応策としては、「リバーウォッチング」や「落ち葉かき」など、既に実施しているイベントの内容を参加者の関心が高まる内容に見直す。また、イベント開催時期の変更を検討していく。

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2024年 実績	2026年 目標値	達成度 (%)
1	・大学連携によるインバウンドにも対応した観光・農業一体の人材育成、産業の活性化 ・スマート農業、農業民間企業との連携による「稼げる農」の創出 ・体験型観光事業の推進	天理ブランド認定数（累計）	2022年 11 件	2024年 21 件	2026年 35 件	42%
2		新規就農者	2022年 42 人	2024年 51 人	2026年 58 人	56%
3		体験型観光を通じた関係人口数	2022年 61 人	2024年 150 人	2026年 320 人	34%
4		観光消費額	2022年 85,000,000 円	2024年 71,901,476 円	2026年 170,000,000 円	-15%
5		チャージ等による地域通貨イチカの決済額	2022年 2,170,471 円	2024年 46,530,439 円	2026年 22,000,000 円	224%
6	・地域通貨イチカによるまちの豊かさの創造、well-beingの向上 （地元消費に住民が「共感」できる新たな価値の創造） ・大学との連携による人材育成プログラム（リカレント教育、行政施策貢献学生）	地域通貨イチカプラス加盟店舗数	2022年 45 店舗	2024年 68 店舗	2026年 70 店舗	92%
7		行政施策貢献学生数（累計）	2015～2023年 138 人	2024年 174 人	2026年 200 人	58%

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

8	・ガバメントクラウドファンディングに活用によるひとり親家庭への支援 ・フードドライブによる食品ロス削減の取組み	ひとり親家庭への支援に係るふるさと納税型クラウドファンディングによる寄附額	2023年 7,876,140 円	2024年 4,080,016 円	2026年 8,400,000 円	-725%
9	・AIを活用した新たなデマンド交通サービスの導入	公共交通機関の利便性が充実していると思う市民の割合	2022年 36.7 %	2024年 34.6 %	2026年 42.0 %	-40%
10		有機農業の面積拡大	2022年11月 0.3 ha	2024年 4 ha	2026年 3.5 ha	116%
11	・有機農業によるオーガニックビレッジの取組み	「ネイチャーポジティブ」の認知度	2023年度 0 %	2024年 5.6 %	2026年 40.0 %	14%
12	・地域での環境保全、生物保護活動 ・市内全小学校での食品残渣削減プロジェクト（みんなの学校プロジェクト）	食品残渣量（1月当たりの市内全小学校総計）	2022年11月 2,792.6 kg	2024年 2,945.8 kg	2026年 1,995.4 kg	-19%
13	・官民連携によるサーキュラーエコノミーの取組み	フードバンクによる食品収集量	2022年 682 kg	2024年 277 kg	2026年 740 kg	-698%
14		新たなリサイクル（テラサイクルジャパン合同会社との連携）対象品目数	2023年 3 品目	2024年 3 品目	2026年 5 品目	0%

当初値（2022年）には米飯が残渣に含まれていなかったが、現状値では給食業者の変更により、米飯の残渣を含むこととなったため、残渣量が増加。

フードドライブ事業開始時は期間を設定し対面で実施していたが、2024年度から人員配置を行わず、専用の「フードボックス」を常設する方式へ変更したことが要因と考えられる。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

（2）自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

・SDGsに資する取組みの一環として、新たに生ごみを堆肥化する方法を学ぶワークショップを実施し、参加者には家庭で生ごみを処理できる「コンポスト」を作製・持ち帰りいただいた。また、各家庭で処理した生ごみを市役所に持ち込んでいただいた方に天理市の地域通貨イチカのポイントを付与することで、地域での消費拡大やイチカによる収益の一部をこども食堂など地域の支援団体へ寄附を行う「イチカプラス」の取組により、自律的好循環につなげた。

・「ひとり親家庭への支援に関する協定」を締結している認定NPO法人おてらおやつクラブと連携し、ひとり親家庭やこどもを支援する団体へ生活物資を「おすそわけ」する活動を支援した。地産地消にも貢献できるよう、天理市産の物資も「おすそわけ」に同梱しつつ、こどもたちに希望と笑顔を届け、こどもの貧困問題に対し、地域が寄り添い、誰もが助け合える社会づくりを促進した。

・天理市行政施策貢献学生認定制度」に基づき、本市の行政施策への貢献が認められた学生を「貢献学生」として認定した。学生に対しては、地域の行政施策への関心を持つことによりさらなる社会参画を促し、市・大学・学生の協働による持続可能なまちづくりの推進を図った。

（3）「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標4：「再掲」「観光消費額」

●指標5：「チャージ等による地域通貨イチカの決済額」【詳細は後掲】

●指標6：「地域通貨イチカプラス加盟店舗数」【詳細は後掲】

●指標8：「再掲」「ひとり親家庭への支援に係るふるさと納税型クラウドファンディングによる寄附額」

●指標9：「再掲」「公共交通機関の利便性が充実していると思う市民の割合」

●指標11：「ネイチャーポジティブ」の認知度

・達成状況が25%未満となった要因としては、「ネイチャーポジティブ」という言葉が国際的に注目され始めたのが比較的最近であり、まだ一般的に認知度は高くない。加えて、積極的なプロモーションを行っていなかったことも要因の1つと考えられる。対応策としては、環境活動やイベントの際に「ネイチャーポジティブ」という概念の普及に努める。

●指標12：「食品残渣量（1月当たりの市内全小学校総計）」

達成率が25%未満となった要因としては、当初値（2022年）には米飯が残渣に含まれていなかったが、現状値では給食業者の変更により、米飯の残渣を含むこととなったため、残渣量が増加した。取組みとしては、調理工程において食品残渣が発生しにくい献立を立てることにより残渣量の削減を図った。

今後の対策としては、より一層調理時の廃棄を抑えるよう、2024年度に引き続き、調理方法や献立の内容見直しを行っていく。

●指標13：「フードバンクによる食品収集量」

・達成状況が25%未満となった要因としては、家庭で使わない食品等をこども食堂や必要とする世帯に配布するフードドライブを事業開始時は期間を設定し対面で実施していたが、2024年度からは人員配置を行わず、専用の「フードボックス」を常設する方式へ変更したことが要因と考えられる。対応策としては、事業実施方式の検討及びSNSや広報紙を活用したPRを行い、フードバンクの目的を明確に示し、フードボックスの設置場所を周知していく。

●指標14：「新たなリサイクル対象品目数」

・達成状況が25%未満となった要因としては、ステークホルダーから提供されるリサイクルプログラムの中に本市の需要に合う品目がなかったためである。対応策としては、ステークホルダーと情報共有を密に行い、実施可能なリサイクルプログラムを検討していく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

（4）有識者からの取組に対する評価

（記載不要）

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業又は取組名

『自然との共生（オーガニックビレッジ）』『支え合い（well-being）』『地域ブランドの創造』によるまちづくり

(2) モデル事業又は取組の概要

多様な連携による持続可能な「農」のプラットフォームの構築を目指し、大学等との連携により人材育成、産業創出、活躍の場づくりを行う。交流人口、関係人口の創出も図りながら、オーガニックな産品などに新たな付加価値を付け、地域通貨等を活用して流通させることで、経済の活性化につなげる。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
【経済】 ①－1 スマート農業の実現に向けた チャレンジファーム事業、民間企業等との 連携による『稼げる農』の創出 ①－2 産官学連携の体験型観光事業 ～農を通じた地域経済活性化、関係人口 創出事業おてつたび（体験型観光事業）～ ①－3 産官学連携の体験型観光事業 ～産（株式会社JT B）、官（天理市）、学（天理大学） 連携のスポーツツーリズム事業～	ブランド産品の募集を行い、食品・工芸品9品、農産品2品目の認定を行った	天理ブランド認定数（累計）	2022年 11 件	2024年 21 件	2026年 35 件	42%
	・柿農家の繁忙期の人手不足解消及び、関係人口創出のため「おてつたび」を実施し、26名が参加した。 ・自然、歴史・文化資源を掛け合わせたスポーツツーリズムを実施し、124名が参加した。	体験型観光を通じた関係人口数	2022年 61 人	2024年 150 人	2026年 320 人	34%
	観光消費額の増加を促すため、拠点施設の店舗改装を行った。	観光消費額	2022年 85,000,000 円	2024年 71,901,476 円	2026年 170,000,000 円	-15%

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度

2. 自治体SDGsモデル事業

	チャージカード（一般販売、おてつだひ事業参加特典、生ごみ堆肥事業参加特典）によるチャージとポイント還元に伴うポイントによる決済を行った。	チャージ等による地域通貨イチカの決済額	2022年 2,170,471 円	2024年 46,530,439 円	2026年 22,000,000 円	224%
【社会】 ②－1 AIデマンド交通による新しい地域公共交通の導入～「チョイソコてんり」の導入、推進～ ②－2 学校の多世代交流拠点としての機能の複合化（みんなの学校プロジェクト） ②－3 食品を通じた支え合いの取組み～ガバメントクラウドファンディングを活用したひとり親家庭支援、フードドライブ事業～	加盟店のイチカプラス事業への参加を促した。	地域通貨イチカプラス加盟店舗数	2022年 45 店舗	2024年 68 店舗	2026年 70 店舗	92%
	リカレント教育枠として5名まで授業料無料と設定し、市民の受講を促した。	リカレント教育受講者	2023年 0 人	2024年 0 人	2026年 5 人	0%
	ガバメントクラウドファンディングを活用したひとり親家庭、フードドライブ事業を行った。	ひとり親家庭への支援に係るふるさと納税型クラウドファンディングによる寄附額	2023年 7,876,140 円	2024年 4,080,016 円	2026年 8,400,000 円	-725%
	令和6年4月1日より本格運行を開始し、当該年度の利用人数は、27,335人の利用があった。	公共交通機関の利便性が充実していると思う市民の割合	2022年 36.7 %	2024年 34.6 %	2026年 42 %	-40%

2. 自治体SDGsモデル事業

【環境】 ③－1 有機農業によるオーガニックビレッジの実現 ③－2 カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの取り組みによるゼロ・ウェイスト社会の実現 ～官民連携による新しいサイクルプログラムによるサーキュラーエコノミー事業～ ③－3 カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの取り組みによるゼロ・ウェイスト社会の実現 ～全小学校での食品残渣削減プロジェクト（みんなの学校プロジェクト）～ ③－4 カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの取り組みによるゼロ・ウェイスト社会の実現 ～環境保全活動、生物保護活動の推進～	布留川清掃や落ち葉かきといった市民参加型の環境イベントを実施した。	環境活動参加者数	2023年 179人	2024年 406人	2026年 1073人	25%
	児童への環境学習を実施し、食品残渣発酵分解装置を用いた残渣の堆肥化を行った。	食品残渣量（1月当たりの市内全小学校総計）	2022年11月 2,792.6 kg	2024年 2,945.8 kg	2026年 1,995.4 kg	-19%
	天理市環境連絡協議会などとの連携により、グリーンカーテンなどを実施することで、民間レベルからのカーボンニュートラルを目指す。	官民連携のカーボンニュートラル事業取り組み数	2022年11月 4事業	2024年 5事業	2026年 5事業	100%

2. 自治体SDGsモデル事業

	市役所庁内や市立公民館にてフードバンク天理によるフードドライブを実施した。	フードバンクによる食品収集量	2023年 682.0 kg	2024年 277.0 kg	2026年 740 kg	-698%
	使い終わったスポンジやボールペンなどを回収した。	新たなリサイクル（テラサイクルジャパン合同会社との連携）対象品目数	2023年 3 品目	2024年 3 品目	2026年 5 品目	0%

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標3：【再掲】「観光消費額」
 - 指標4：「チャージ等による地域通貨イチカの決済額」【詳細は後掲】
 - 指標5：「地域通貨イチカプラス加盟店舗数」【詳細は後掲】
 - 指標6：「リカレント教育受講者」
- ・当該指標は産官学連携事業の人材育成プログラムとして実施しているリカレント教育について、授業料無料で受講できるリカレント教育枠を設置し受講者を募ったものの、令和6年度の履修者はいなかった。達成度が25%未満となった要因としては、事業のPRが不十分であったことが考えられる。対応策として、SNSの周知だけでなく、チラシを作成し公民館、商工会やハローワーク等に配架することで広く周知していくとともに、オンライン受講など利便性の良い受講方法について検討していく。
- 指標7：【再掲】「ひとり親家庭への支援に係るふるさと納税型クラウドファンディングによる寄附額」
 - 指標8：【再掲】「公共交通機関の利便性が充実していると思う市民の割合」
 - 指標10：【再掲】「食品残渣量（1月当たりの市内全小学校総計）」
 - 指標12：【再掲】「フードバンクによる食品収集量」
 - 指標番号13：【再掲】「新たなリサイクル対象品目数」

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

（1）三側面をつなぐ統合的取組名

「里山発！環境共生による地域ブランド力向上プロジェクト」

（2）三側面をつなぐ統合的取組の概要

オーガニックビレッジの実現の取組みとともに、大学と連携した将来の「農」に貢献できる人材を育成。地元企業との連携により、有機農業をはじめとする「農」のプラットフォームを確立する。生産した産品をブランド認定することで付加価値を付け、地域通貨等も活用して流通させ、地域ブランド力の向上を目指す。

（3）三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境	経済⇄社会	社会⇄環境
（経済→環境） スマート農業の推進や農に関する民間企業との連携による新たな「地域ブランドの創造」により、経済面の「稼げる農」の創出による農業従事者の所得増加が図られ、環境面において有機農業をはじめとする農業の振興という相乗効果の創出が見込まれる。 （環境→経済） 「自然との共生（オーガニックビレッジ）」により、環境面の有機農業の促進により里山、農地が保全され、経済面において流通・販売量が増加し、地域経済が活性化するという相乗効果の創出が見込まれる。	（経済→社会） 地域通貨イチカを活用した「地域ブランドの創造」により、経済面の地域通貨イチカによる域内経済循環が促進され、社会面においては地域に根差した消費活動と社会貢献との連携により、コミュニティが活性化され、well-beingの向上につながるという相乗効果の創出が見込まれる。 （社会→経済） 地域通貨イチカを活用した「イチカプラス事業」により、「市民共感型のまちづくり」「支え合い（well-being）」により、社会面のフードバンク、子ども食堂における取組みが活性化され、経済面において地域通貨イチカの流通量が増え、地域での消費活動が促進されるという相乗効果の創出が見込まれる。	（社会→環境） 大学、社会福祉協議会、小学校、公民館など多様な連携による「市民共感型のまちづくり」「支え合い（well-being）」により、社会面の食品ロスや食品残渣が減少、ごみ焼却量が削減されることにより、環境面においてCO2排出量が削減されるという相乗効果の創出が見込まれる。 （環境→社会） 「自然との共生（オーガニックビレッジ）」により、環境面の地域での環境保全・生物保護活動が高まり、社会面においては地域社会と自身が関わり繋がっているという当事者意識が醸成され、社会活動とコミュニティの活性化につながるという相乗効果の創出が見込まれる。

（4）三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】 新規就農者数	2022年 42 人	2024年 51 人	2026年 58 人	56%
2	【経済→環境】 新規参入農業関連企業数	2023年 2 社	2024年 5 社	2026年 6 社	75%
3	【環境→経済】 有機農業の面積の拡大	2022年 0.3 ha	2024年 4 ha	2026年 3.5 ha	115%
4	【経済→社会】 地域通貨イチカプラス加盟店舗数	2022年 45 店舗	2024年 68 店舗	2026年 70 店舗	92%
5	【社会→経済】 チャージ等による地域通貨イチカ決済額	2022年 2,170,471 円	2024年 46,530,439 円	2026年 22,000,000 円	224%
6	【社会→環境】 フードバンクによる食品収集量	2022年 682 kg	2024年 277 kg	2026年 740 kg	-698%
7	【社会→環境】 食品残渣量（1月あたりの市内全小学校総計）	2022年 2,792.6 kg	2024年 2,945.8 kg	2026年 1,995.4 kg	-19%
8	【環境→社会】 環境活動参加者数	2023年 179 人	2024年 406 人	2026年 1,073 人	25%

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

（5）自律的好循環の形成に向けた取組状況

オーガニックビレッジの実現の取組みとともに、生産した産品をブランド認定することで付加価値を付け、地域通貨等も活用して流通させ、地域ブランド力の向上に取り組んだ。また、地域通貨イチカを使用して買い物や食事をする、有志の加盟店が売上の一部がこども食堂など地域の支援団体へ寄附される「イチカプラス」については、日常の買い物や食事がまちの支援へとつながる独自の付加価値となった。より多くの利用者により広くイチカを利用してもらえるよう、地域通貨イチカの利用を促進する各種キャンペーン等を実施するとともに、イチカを使うことが地域の支え合いとより良いまちづくりにつながるというイチカとイチカプラスへの共感を徐々に広げ、参画する店舗と利用者の増加を図った。地元消費と支え合いを循環させ、地域通貨を使うことに共感が得られる住民参加のまちづくりを推進した。

（6）「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標4：「チャージ等による地域通貨イチカの決済額」

・進捗が良かった要因としては、ポイント還元キャンペーンの実施により、一般販売されたイチカのチャージカードのポイントチャージによる決済金額が大幅に増加したことが考えられる。また、環境保全活動や健康増進活動などのSDGsに資する取組みの参加者にイチカポイントを付与し、消費活動を促進したことも要因の一つと考えられる。

・PRできる点は、イチカを使用して買い物や食事することにより、地元地域経済の活性化だけでなく、地元消費と支え合いを循環させ、地域通貨を使うことに共感が得られる住民参加のまちづくりを推進している点。

●指標5：「地域通貨イチカプラス加盟店舗数」

・進捗が良かった要因としては、イチカプラス事業への参加店舗が、イチカによる支払いが支え合い活動を行う団体への支援につながるという仕組みを十分に理解し、賛同を得られたことにある。

・PRできる点は、イチカプラスの取組により、イチカプラス参加店を通じて、イチカ利用者と地域の支援活動団体につながり、地域におけるつながりが再構築され、地元消費と支え合いを循環させ、地域通貨を使うことに共感が得られる住民参加のまちづくりを推進している点。

●指標6：【再掲（詳細説明）】「食品残渣量（1月当たりの市内全小学校総計）」

●指標7：【再掲（詳細説明）】「フードバンクによる食品収集量」

（7）有識者からの取組に対する評価

（記載不要）